

【日本農業新聞 2014年9月15日付～9月21日付の紙面から】33回目
<コメント>

日米のTPP交渉が大詰めを迎えた。甘利明TPP担当相とフロマン米通商代表部（USTR）代表が23、24日に米ワシントンで会談することになった。日本政府は16日時点では、農産物関税をめぐる実務者協議を模索していたが、19日には一転して閣僚会談を発表。11月中の大筋合意を目指すオバマ大統領は、実務者レベル交渉に見切りをつけ、日本政府に政治決断を迫っている。ヤマ場の交渉を米国で行うことは要注意だ。

<概要>

■ TPP 各国と関税協議進展／日米決着なら急展開も

【9月15日付3面】

TPP交渉で、日本と各国との関税協議が進展し始めた。農産品の重要品目を含め関税撤廃の原則論にこだわってきた各国が、関心品目に絞った交渉方針に変わり、具体的な協議になってきたためだ。最大の焦点となる日米協議も、意見の隔たりはあるものの原則論での足踏み状態から脱し、具体的な交渉に踏み込んでいる。日米が決着すれば、その他の国との関税交渉やルール上の難航分野の交渉を含め全体が一気に妥結に向かう恐れがある。

■ TPP日米実務者協議 最終的な考え調整／甘利担当相 重要品目で譲歩警戒

【9月17日付3面】

甘利TPP担当相は16日の閣議後会見で、TPP交渉について、月内にも開かれる農産物関税をめぐる日米実務者協議で、「最終的に日本がどう考えるかということの日米間ですり合わせをしなければならない」と述べた。米国は閣僚レベルでの打開を目指し、日本に閣僚会合開催を打診。日本は実務者協議の進展を前提に閣僚会合に応じる方針だ。閣僚会合に向けて、日本が重要品目をめぐる自由化提案で譲歩しないか注意が必要だ。

■ 10月に豪でTPP閣僚会合？／進展次第で交渉急加速も

【9月18日付2面】

TPP交渉参加国が、10月にオーストラリアで首席交渉官会合や閣僚会合の開催を検討していることが17日、分かった。米通商専門誌「インサイドUSTR」が関係者の話として報じた。しかし、日本政府関係者は「連絡を受けていない」としており、開催や日程は流動的な模様だ。日米両国は、9月中にも閣僚協議を開くために実務者協議の再開を調整中。進展次第で交渉全体が大きく動き出す可能性がある。

■ TPPで協力確認／ケネディ米大使が農相表敬

【9月19日付2面】

米国のケネディ駐日大使が18日、東京・霞が関の農水省に西川公也農相を表敬訪問した。TPP交渉について、早期の交渉妥結に向けて両国が協力することを確認。農水省によると、今後の交渉日程や妥結目標、具体的な品目などの踏み込んだやりとりはなかった

という。ケネディ大使は西川氏の農相就任を受け訪問した。

■WTO農業委員会 補助金協議が難航／先進国と途上国対立

【9月19日付2面】

世界貿易機関（WTO）は16日に農業委員会を開き、昨年12月のバリ島閣僚会議で交渉開始が決まった途上国の農業補助金問題を協議した。争点は途上国の政府が低所得農家から農産物を買う上げるための農業補助金の扱いだ、協議の場をめぐって先進国と途上国が対立。具体的な内容には踏み込めなかった。インドなど食料輸入途上国グループは、協議の場をドーハ・ラウンドの農業交渉会合に変更するよう要求。欧米など先進国は、常設機関の農業委員会で協議を続けるとの立場を堅持し、譲歩しなかった。

■TPP 23日に日米閣僚会談／農産物関税議論 強まる妥結圧力

【9月20日付1面】

甘利TPP担当相は19日の閣議後会見で、米通商代表部（USTR）のフロマン代表と23、24の両日、米ワシントンで会談することを明らかにした。TPP交渉の農産物関税をめぐり、閣僚級で打開策を探る。甘利担当相は米国の強硬姿勢をけん制し、西川農相も同日、重要品目の聖域確保を求めた国会決議などを守り抜く基本姿勢を強調した。オバマ米大統領が11月の大筋合意を目指す中、日米協議への妥結圧力が強まっており、警戒が必要だ。

■TPPで米通商代表 首相に譲歩迫る／高水準の自由化 決断を

【9月20日付3面】

USTRのフロマン代表は18日、TPP交渉について米ワシントンで講演し、日本に対して「(高水準の自由化は) 政治的な意思があれば実現できる」と述べた。23日からの日米閣僚会談を前に、安倍政権に農産物関税などでの譲歩を迫った格好だ。フロマン氏は、TPP交渉について「日本との協議が中心」「重大な局面にある」と指摘。安倍政権に政治的決断を要求した。

■農林、TPP…要職誰に 自民／農政課題 対応待ったなし 重鎮、改革派 綱引き？

【9月20日付3面】

内閣改造から2週間が過ぎたにもかかわらず、自民党農政の要・農林水産戦略調査会長と、TPP交渉の責任者であるTPP対策委員長がいまだに決まらない。農政やTPPをめぐる課題は山積で、29日には臨時国会も召集される。だが党内議論が全く進んでおらず、農林議員らは困惑している。TPPをめぐるっては来週、甘利TPP担当相が訪米してフロマン代表と会談するなど、大きなヤマ場を迎える。与党としての責務が問われそうだ。

■取材ノート TPP決議順守監視を／国会の役目重要

【9月21日付2面】

TPP交渉を取材していて難しいのは、表に出てくる説明だけでは交渉の状況が分から

ないことだ。最大の焦点である日米協議で、交渉担当者は「霧が晴れた」「8合目」など状況を登山に例えて説明するが、交渉の具体的な中身は決して明かさない。今がどんな局面なのか判断するのは難しく、悩みながら記事を書いている。内閣改造で就任した西川農相は、重要品目の聖域確保を求める国会決議を守り抜く決意を示す。決議が守られているか、監視する国会の役割が極めて重要になる。(玉井理美)

以上